

循環器のスペシャリストを育てる



豊橋ハートセンター
循環器科・心臓血管外科



薄いピンク色の建物に入ると、天窓のついたクリーンな待合室でくつろぎながら診察を持つ患者の姿が日に入る。院内は隅々まで非常に気を配って手入れされており、一隅には生け花が飾られ、患者が撮影した写真の個展が聞かれるなど親しみやすい雰囲気にあふれている。今回は、アットホームな雰囲気のなかで、日帰りカテーテル検査など積極的な取り組みを行っている豊橋ハートセンターを取材した。



◆ DATA ◆

- ・所在地：〒441-8071 愛知県豊橋市大山町字五分取 21-1
- ・病床数：30床（2001年68床の予定）
- ・診療科：循環器科、心臓血管外科、内科
- ・看護職員数：26名

【施設の特徴】

- ・循環器疾患専門医療施設
- ・24時間救急体制
- ・日帰りカテーテル検査
- ・カテーテル治療とバイパス手術

・平均在院日数：5.0日

・おもな疾患

冠動脈疾患、不整脈疾患、弁膜疾患、心筋疾患、大血管疾患、高血圧症、末梢血管疾患
先天性心疾患

【看護部概要】

・勤務体制：2交代 ・看護体制：受持ち制

院長 鈴木孝彦先生

循環器センターは、昨年開院以来、患者様本位の医療をめざし循環器疾患の検査と治療に24時間体制で取り組んで参り、東海地区の多くの開業医、病院の先生からのご紹介をいただけるようになりました。今後は、患者様サイドに立脚した医療システムを構築し、癒しの環境を充実させていきたいと思っております。



副院長 大川育秀先生

医師としてこの病院でめざすものは、それぞれの個人・地域のニーズに合った心臓の手術です。自分の成績もオープンに、互いの仕事もよくわかるようにして、統合した医療を提供していただけるようますます努力していきたいと思っております。



看護部長 浅井優子さん

開業して1年ほどの病院なので、これからも組織や体制作り力を入れていきたいと思っております。循環器のスペシャリストの養成をめざし、個々のナースも職業をとおして成長できるように職場作りをしていくことが今後の目標です。



循環器病棟ナース 三浦敦子さん

循環器はこの病院に来て初めて触れる領域で、本などで勉強するだけでなく、日々の仕事から学ぶものも多く、とても楽しいです。患者さんの身になって考え、気持ちをくんであげられるナースになることが目標です。



外来部長 加藤悦子さん

ナースには、不安をもって来院される患者さんを優しく受け入れ、日々の仕事からいろいろなことを吸収し反映して欲しいですね。今後は外来における看護記録の構築を目標に取り組みしていきたいと思っております。



循環器病棟ナース 尾林依枝さん

この病院は循環器をやりたいたい！と思って来た人が多く、みんな前向きなので、忙しいながらも楽しい職場です。毎日の看護では、患者さんのその人らしさを大切に、心温まる看護を提供していくことがモットーです。



スペシャリストになるためには

この病院のナースは4-5年のキャリアをもつベテランナースがほとんどだが、循環器経験者から未経験者まで、その中身はさまざま。ナースの人数は病院全体で26名、1日のローテーション人数は3名と、少数精鋭である。部長以下の役職は作らず、院内の委員会活動がさまざまな活動や意思決定の中心となっているというユニークな組織づくりを行っている。

「少ない人数で高度な医療を提供するには、まずナース一人ひとりが循環器ならオペ室からカテール室、外来、病棟の看護までな

んでもこなせなくてはなりません。また初めから一つの部署の専属にしていると、ここからここまでは私の仕事、だけどそれは他人の仕事だから、極端にいえばごみ一つ拾うにも手は出さないという役割分担の弊害が出てきます。患者さんに安心していただくには、どのナースに何をたずねても、何を頼んでも納得していただける答えや対応ができることが重要です。また、誰がどこに行ってもきちんと仕事ができると、職員どうしで互いに気持ちよく働けるよう配慮しあうという姿勢が出てきます。職種間の垣根をつくらない組織のメリットです」と浅井部長は言う。こうして病院や循環器看護全体

のことがわかったうえで、それぞれの適性や興味に合わせた専門看護をめざしていく。病院として、やっただけのことは職員に還元するというスタンスをとっており、学習を深めたいナースに対しては院外の研修会や学会への参加費用などのバックアップを行っている。ナースも安心して研究や学習に打ち込むことができる環境にある。

患者さんの負担は最小限に

当センターでは、日帰りカテール検査、1泊2日インターベンション治療へ積極的に取り組んでいる。実際の治療の流れは表のようになっている。

日帰りカテーテル検査への取り組み

豊橋ハートセンターでは、日帰りカテーテル検査、1泊2日でのインターベンション治療に取り組んでいる。検査、治療後の早期離床を進め、患者の日常生活への影響をできるだけ少なくすることを心がけている。

心臓カテーテル検査・治療の件数
心臓カテーテル検査 210例/月
うち日帰り 165例/月
インターベンション 85例/月

↓カテーテル検査の様子



日帰りカテーテル検査の流れ

検査旅行が決定したら

- 外来での前検査
- 外来ナースによる説明・日程の決定
(心臓の基本的な仕組み、なぜこの検査が必要か
どんな検査をするのか、検査までの注意事項、
患者からの質問を受ける)

検査2日前

- 患者宅へ検査日の再確認の電話

検査当日

- 朝 8:30 来院・事前説明 (集団で)
- ↓
カテーテル検査旅行
- ↓
(この間、穿刺部の観察・食事の提供)
安静 3時間程度
- ↓
検査結果・注意事項の説明
- ↓
夕方 帰宅

退院

- 8:00~9:00の間にドクターより退院の電話

心疾患は働き盛りの年代に多く発症するので、仕事の都合でまとめて休みを取ることのできない患者も多く、日帰りや1泊2日程度で検査や治療を受けられるのはとても都合がよい。また、治療後数ヶ月ごとに行われるカテーテル検査も受けてもらいやすいので治療後も安心して生活を送ることができる。

もちろん、短期間の在院で検査・治療を行うために剃毛をなくして消毒のみにする、食事制限は一切行わないなど、省力化と患者負担軽減のための工夫を行っている。在院中の食事やテレビなどは無料で提供するなどの患者サービ

スも充実している。

外来の加藤部長は、「患者さんが検査から自宅へお帰りになる時、気になるのはやはり出血です。帰宅される時はカテ室ナースだけでなく、外来のナースも患者さんの様子に気を配って心配な方には声をかけて穿刺部を観察するなどしています。今は1泊2日で行っているインターベンション治療も、ゆくゆくは日帰りで行うこともできるだけのノウハウを蓄積しているところです。在院期間が短いだけに、カテ室と外来の連携がとても重要です。在院期間を短くしていくにはナースの力が大きな戦力となるのです」と患者一人ひとりに

ナース全体でかかわっていくことが大切と強調した。

開心術などの心臓外科手術でも、抜管は術翌日、ドレーン、バルーンカテーテル、ライン類も術2日目で抜去し、早ければ5日程度で退院と、術後の早期離床を進めている。

今後は「カテ・インターベンション・手術コーディネーター」として、手術の予約からアフターケアはもちろん、経済や社会的な面での相談にも十分対応できる知識をもったナースの養成も視野に入れながら、ナースの力を育て、最大限に活かしていく環境作りに力を入れているという。

(編集部 中尾 史)